

第2章

福井市の状況

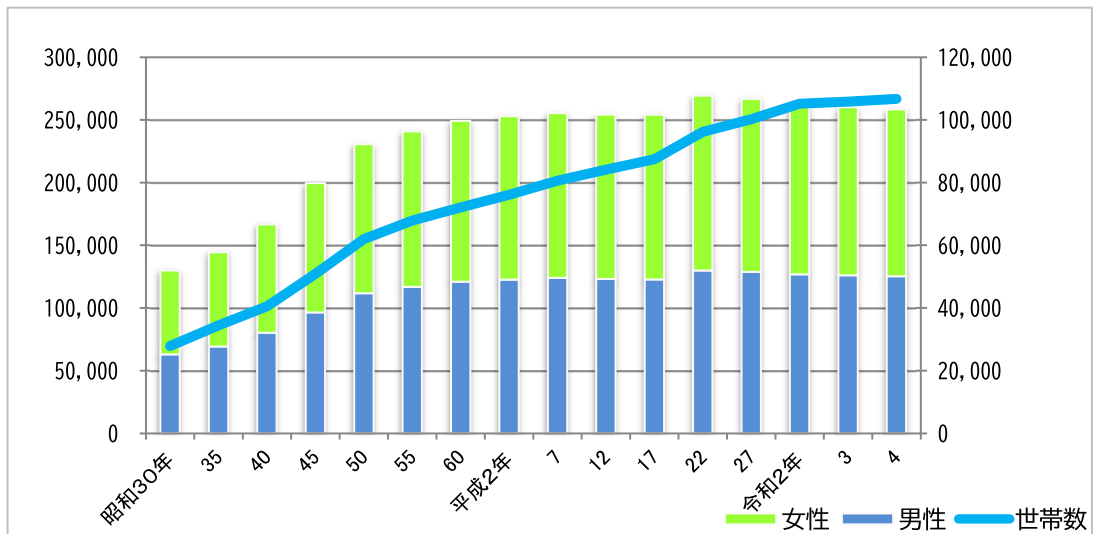
第2章 福井市の状況

1 人口の状況

(1) 人口・世帯の推移

福井市の人口は、平成22年以後減少していますが、一方で、世帯数は増加傾向にあります。

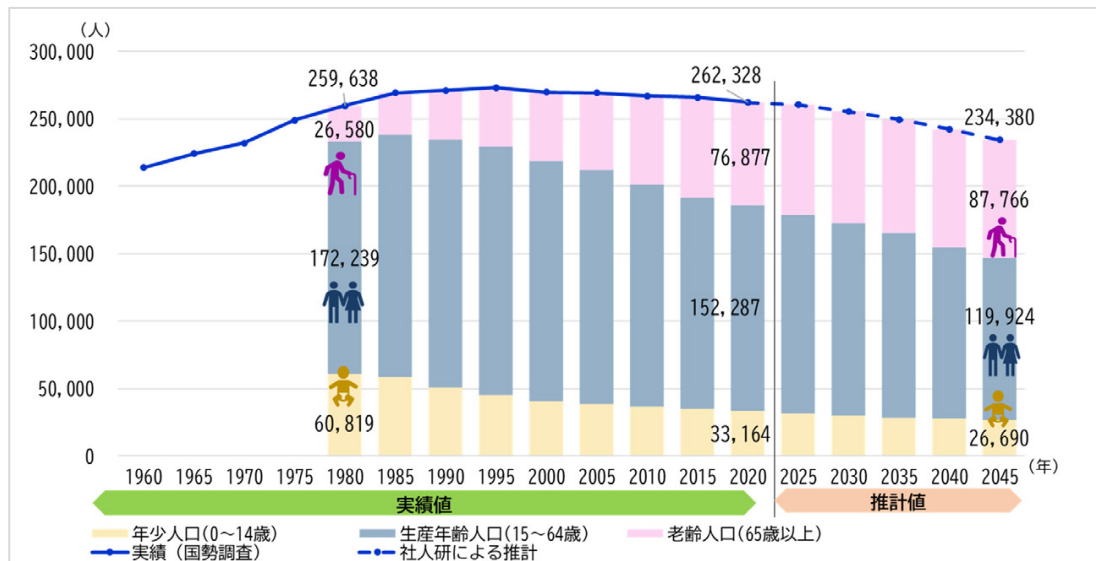
(単位：人、世帯)



(出典：福井市統計書)

(2) 総人口の現状と予測

福井市の総人口は、減少傾向が続くと予測されており、2045年には、2020年より約2万8千人(約1割弱)が減少する見込みです。

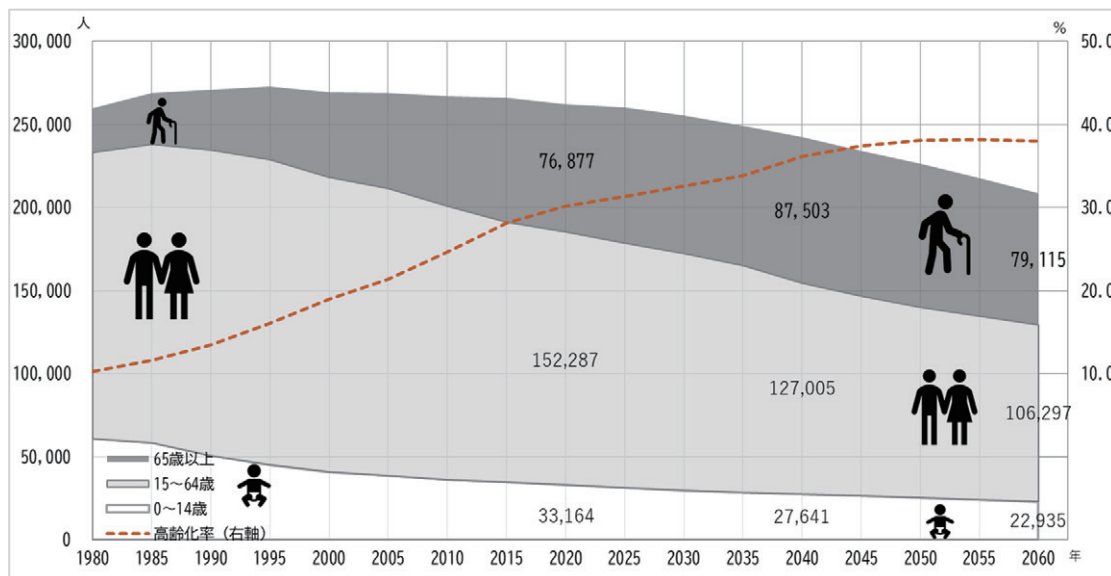


(出典：実績値…国勢調査(～2020) 推計値…国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」)

(3) 年齢3区分別人口の推移：2015年国勢調査に基づく推計

年少人口(0～14歳)は減少し続け、2040年には、2020年に比べて約6千人減少して8割程度になると見込まれています。

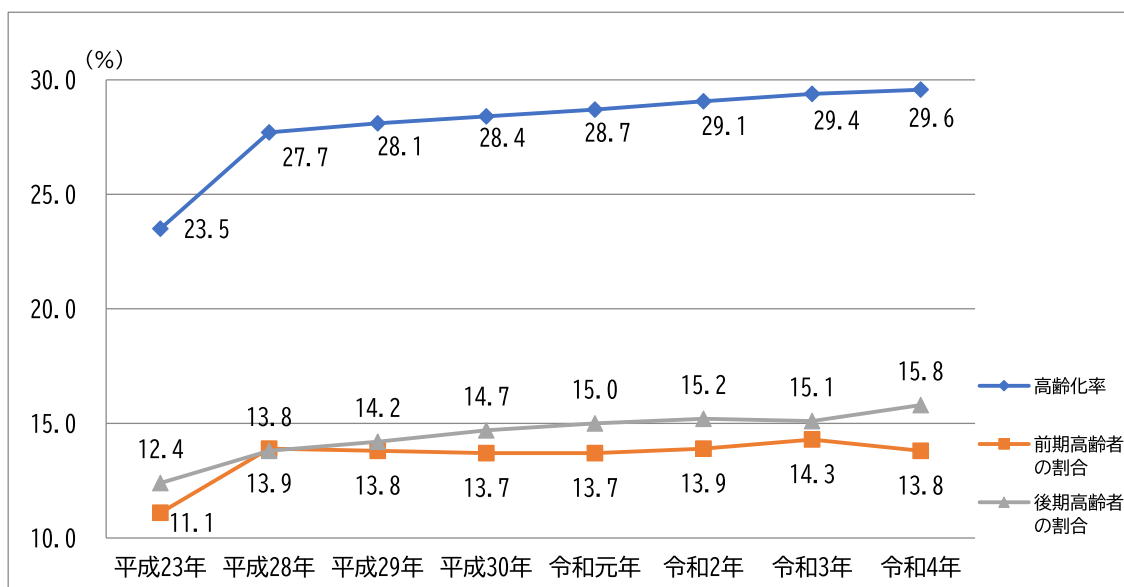
また、生産年齢人口(15～64歳)も大幅な減少が見込まれ、2040年には、2020年に比べて約2万5千人の減少となる見込みです。



(出典：実績値…国勢調査(～2020) 推計値…国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」)

(4) 高齢化率の推移

高齢化率が年々上昇しています。



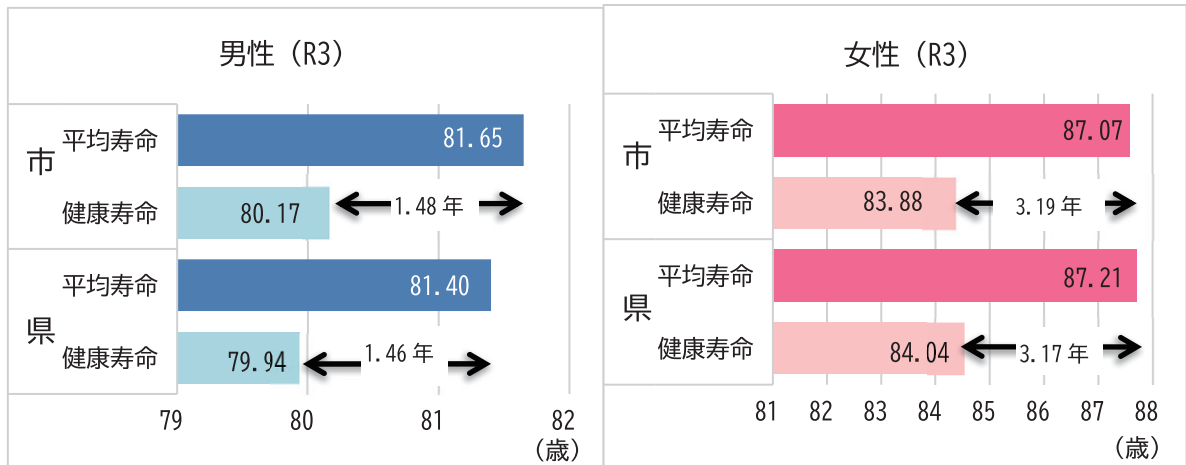
(出典：人口動態統計)

2 平均寿命・健康寿命・要介護の要因

(1) 平均寿命・健康寿命

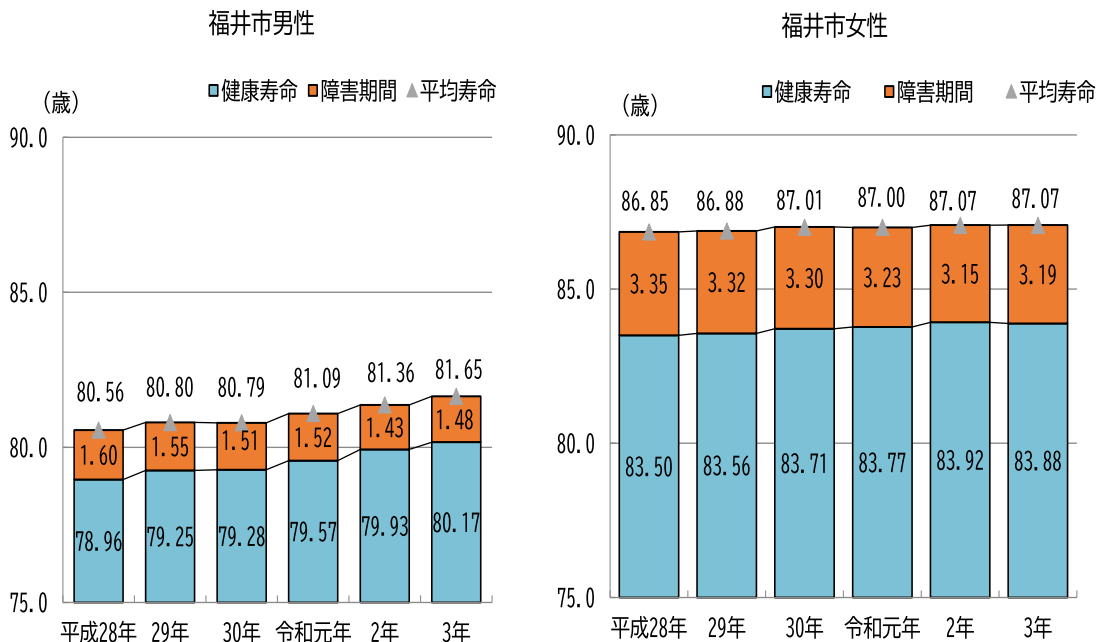
福井市男性の令和3年平均寿命は、81.65歳（県：81.40歳）健康寿命は、80.17歳（県：79.94歳）で、女性の令和3年平均寿命は、87.07歳（県：87.21歳）健康寿命は、83.88歳（県：84.04歳）です。

健康寿命は、寝たきりや認知症により介護が必要な状態ではない「生活が自立している期間の平均」のことを指します



(出典：福井県)

■平均寿命・健康寿命年次推移

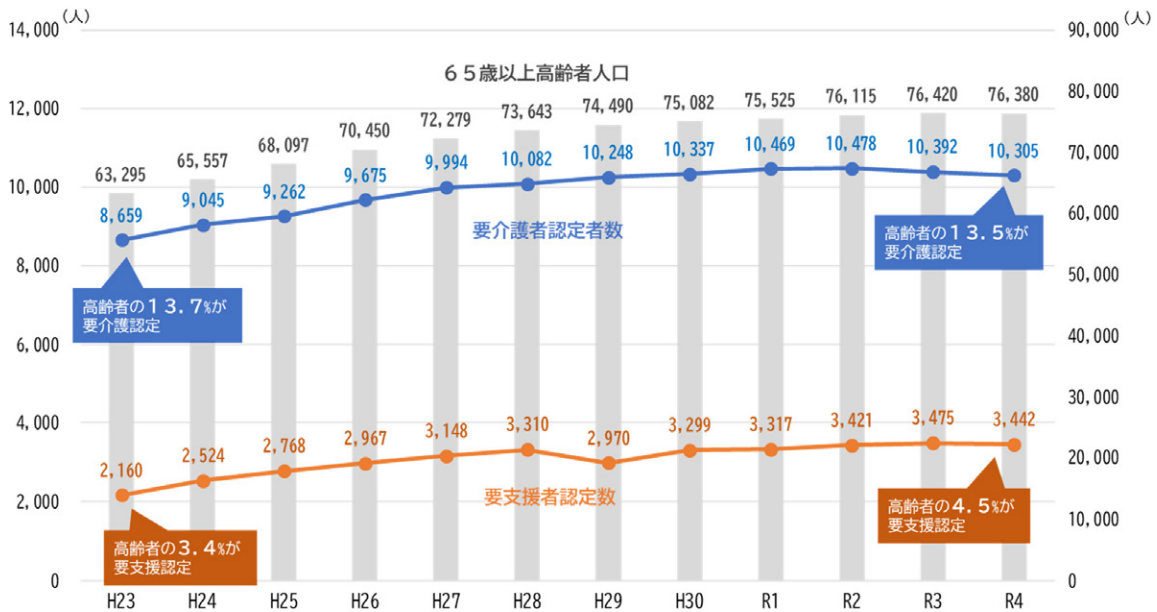


(出典：福井県)

※平均寿命と健康寿命の差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味する。

(2) 福井市の要介護・要支援認定者数の推移

高齢者における要支援及び要介護認定者数は、増加傾向にあったが、近年は横ばいの状態となっています。

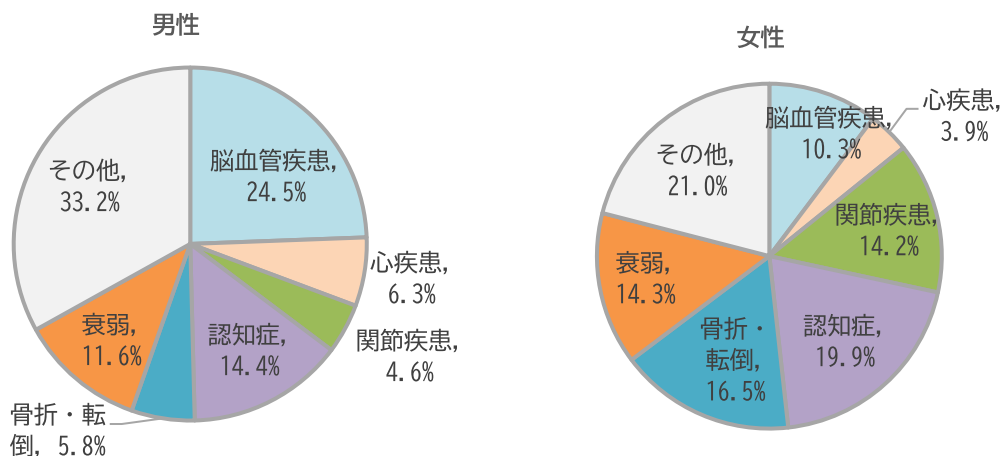


※要介護・要支援認定者数は各年度末数値（1号被保険者のみ）
 ※65歳以上高齢者人口は、各年10月1日の福井市統計書より

(出典：厚生労働省 介護保険事業状況報告 第2-1表
 介護保険事業状況報告（令和5年3月分）)

(3) 要介護の要因

要介護の要因では、男性は脳血管疾患が最も多く、女性は認知症が最も多くなっています。



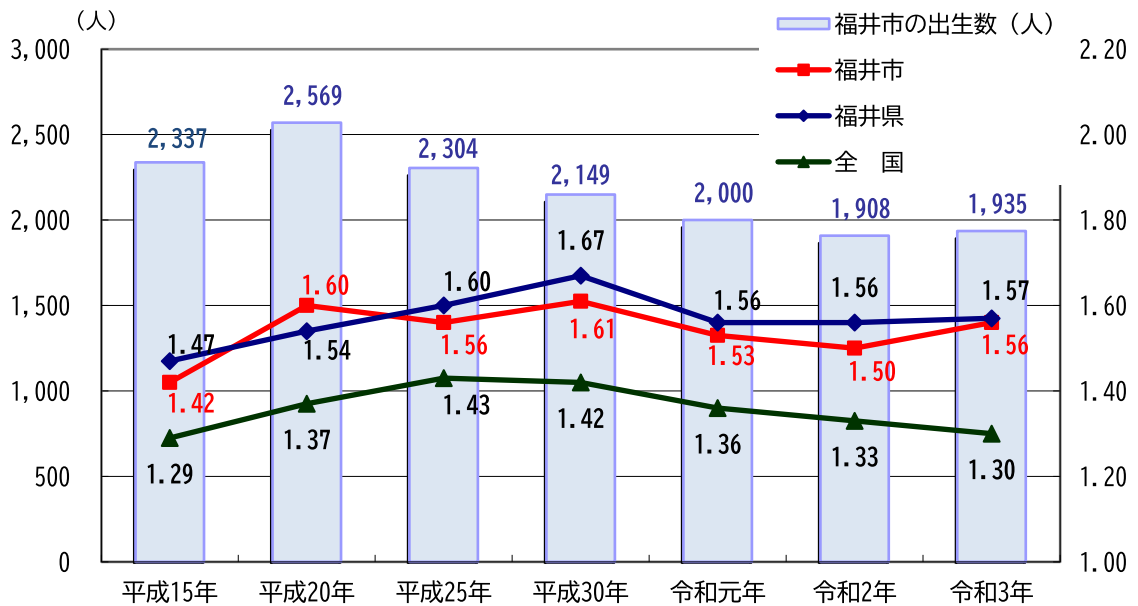
(出典：令和4年高齢社会白書)

3 出生の状況

(1) 出生数と合計特殊出生率

福井市の出生数は、減少傾向にあり、令和2年以降2,000人を下回っています。

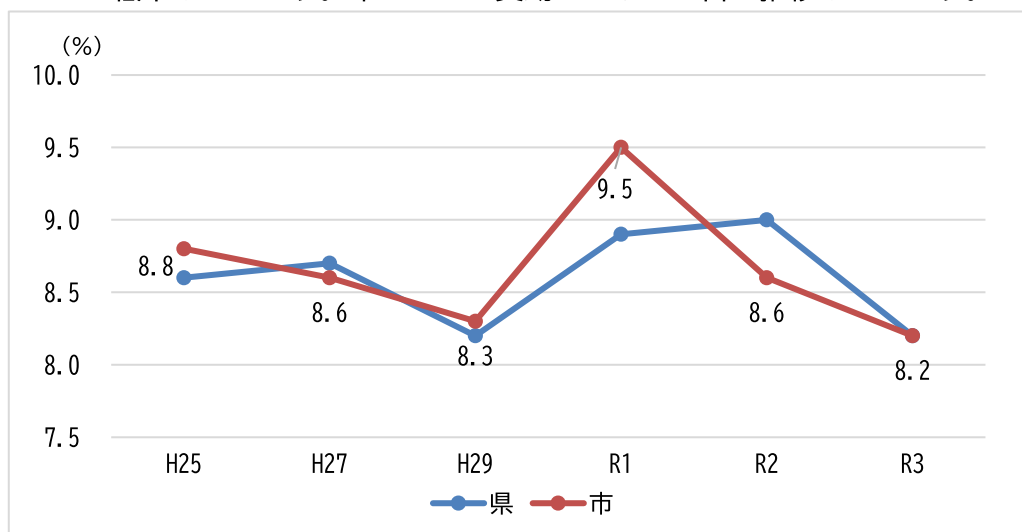
合計特殊出生率は、全国を上回っており、県との比較では、県1.57、福井市1.56（令和3年）とほぼ同率となっています。



(出典：市子育て支援課)

(2) 低出生体重児出生率

福井市の低出生体重児の割合は、平成25年の8.8%に比べて令和3年は8.2%と低下しています。年によって変動があり8%台で推移しています。



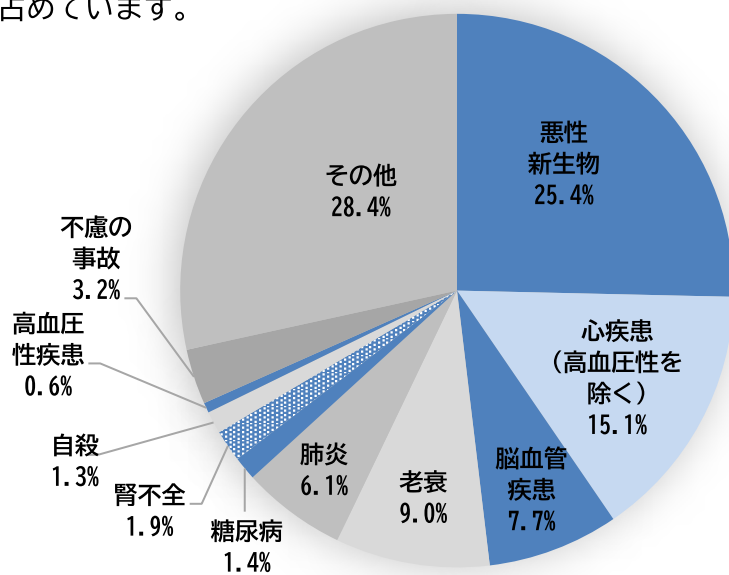
(出典：福井県人口動態統計)

4 死亡の状況

(1) 主な死因の割合

福井市の令和3年の死因順位は、1位悪性新生物、2位心疾患、3位老衰、4位脳血管疾患、5位肺炎となっており、全国と同様の傾向です。

また、悪性新生物や心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病は、死亡者数の約5割を占めています。



(出典：人口動態統計)

(2) 市内死因別死亡数及び率 (人口10万対) (令和3年)

(人)

		福井市	福井県	全国
人口		260,507	760,209	122,780,487
総死亡	死亡数	3,064	9,721	1,439,856
	人口10万対	1176.2	1278.7	1172.7
悪性新生物	死亡数	777	2,387	381,505
	人口10万対	298.3	314.0	310.7
心疾患	死亡数	462	1,616	214,710
	人口10万対	177.3	212.6	174.9
肺炎	死亡数	187	587	73,194
	人口10万対	71.8	77.2	59.6
脳血管疾患	死亡数	235	742	104,595
	人口10万対	90.2	97.6	85.2
老衰	死亡数	276	1,014	152,027
	人口10万対	105.9	133.4	123.8
不慮の事故	死亡数	99	302	38,355
	人口10万対	38.0	39.7	31.2
腎不全	死亡数	57	184	28,688
	人口10万対	21.9	24.2	23.4
自殺	死亡数	40	125	20,291
	人口10万対	15.4	16.4	16.5
大動脈瘤 及び解離	死亡数	31	106	19,351
	人口10万対	11.9	13.9	15.8
肝疾患	死亡数	28	83	18,017
	人口10万対	10.7	10.9	14.7
慢性閉塞性 肺疾患	死亡数	27	102	16,384
	人口10万対	10.4	13.4	13.3
糖尿病	死亡数	42	110	14,356
	人口10万対	16.1	14.5	11.7
その他	死亡数	803	2,363	358,383
	人口10万対	308.2	310.8	291.9

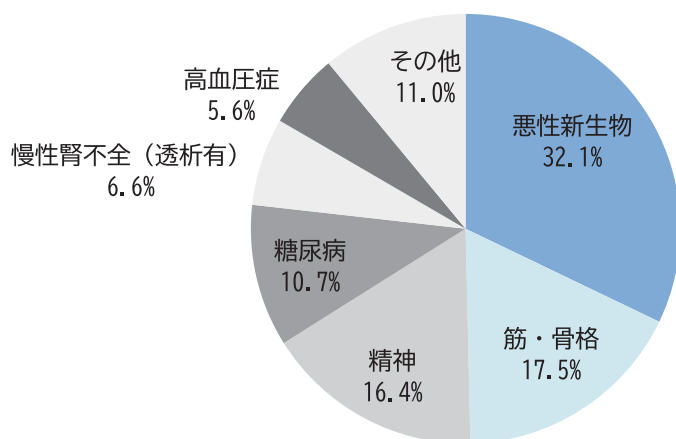
※ 県および市の諸率は福井市保健総務課にて算出 ((死亡数/人口) * 100,000)

(出典：市保健衛生事業概要)

5 疾病・医療費の状況

(1) 福井市国保の年間医療費における生活習慣病の構成割合

福井市国保の年間医療費における生活習慣病の構成割合をみると、悪性新生物（がん）が3割を占め、糖尿病、慢性腎不全（透析有）、高血圧症を合わせると約5割を占めています。



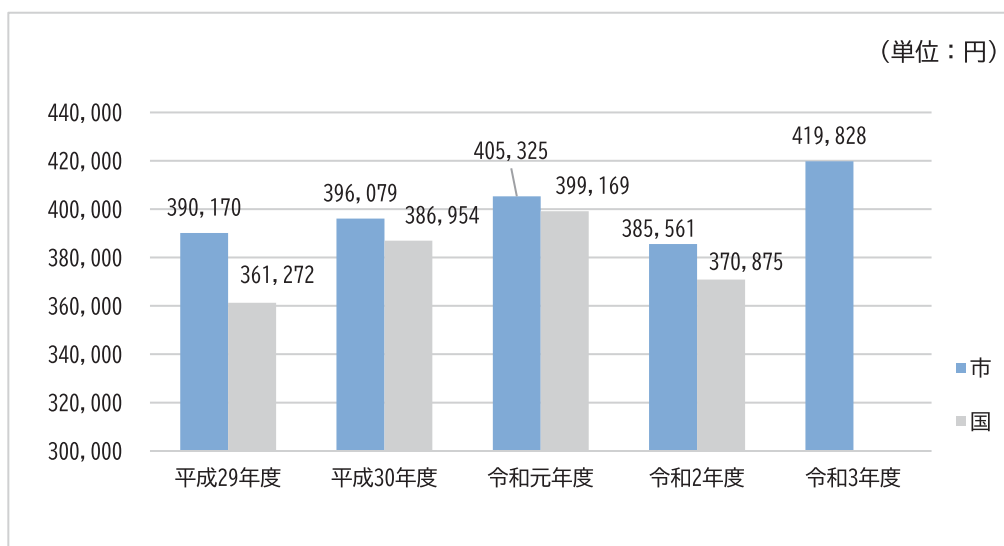
（令和3年度）

（出典：KDB 地域の全体像の把握）

(2) 医療費の状況（福井市国民健康保険加入者1人当たり医療費）

一人当たりの医療費は、新型コロナウイルス感染症流行による受診控えもあり、令和2年度は一旦減少しましたが、令和3年度約420,000円と増加しました。

また、全国に比べると高いことがわかります。



（出典：市保険年金課 福井市の国保）

(3) 医療費の内訳（福井市国保）

令和3年度の疾患別医療費は、外来では糖尿病にかかる医療費が最も高く、次いで高血圧症、慢性腎臓病（透析あり）の順に高くなっています。

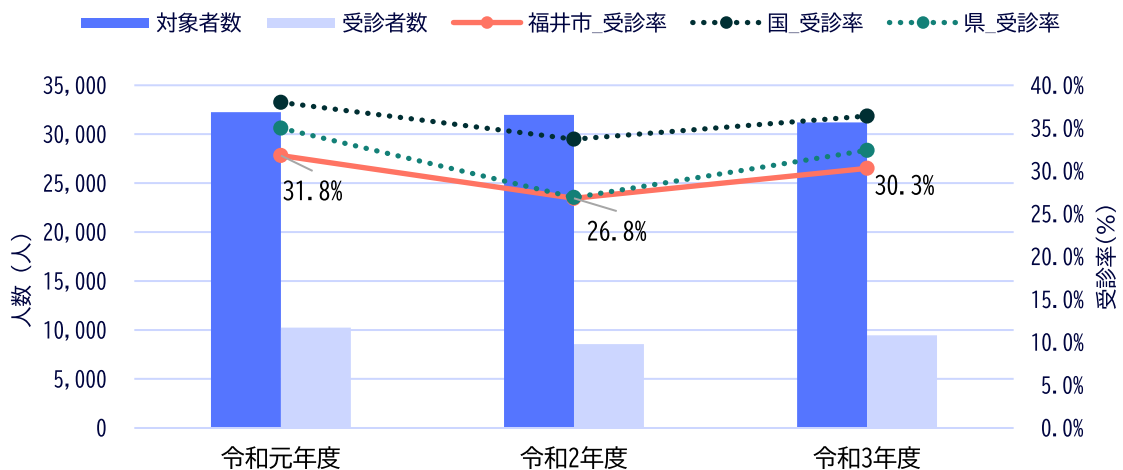
外来医療費（高い順）

	疾患名	金額
1	糖尿病	8億3875万円
2	高血圧症	4億8242万円
3	慢性腎臓病（透析あり）	4億8015万円
4	関節疾患	4億4214万円
5	脂質異常症	3億5153万円

（出典：KDB 医療費分析(1)細小分類）

(4) 特定健診受診率（福井市国保）

新型コロナウイルス感染症流行による受診控えもあり、令和2年度の受診率は一旦減少しましたが、令和3年度は回復してきています。一方で、国、県よりも低く、県内では15番目（17市町中）となっています。

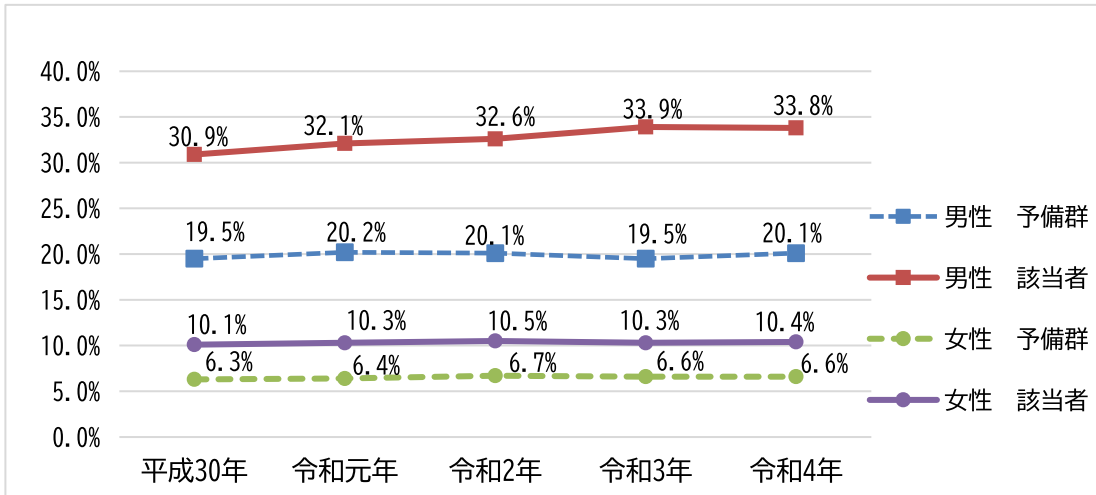


（出典：市保険年金課 福井市の国保）

(5) メタボリックシンドローム該当者および予備群の割合

メタボリックシンドローム該当者は男性が約3割、女性は約1割を占めています。

予備群は男性が約2割を占め、該当者も予備群も男性の方が高い割合となっています。



(資料：KDB 厚生労働省様式)